

## 2.8 不等式への応用・物理への応用

### (1) 不等式の証明

関数の増減を調べることにより、不等式を証明することを考えます。

#### 例1

(1) すべての実数  $x$  に対して、不等式  $\frac{1}{4}x^4 + \frac{3}{4} \geq x$  が成り立つことを示せ。

(2)  $x > 0$  のとき、 $x^3 - 9x \geq 3x - 16$  が成立することを証明せよ。

解説

$$(1) f(x) = \left(\frac{1}{4}x^4 + \frac{3}{4}\right) - x \text{ とおく}$$

$$f'(x) = x^3 - 1 = (x-1)(x^2 + x + 1)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x=1$$

増減表は右図

$f(x)$  は  $x=1$  で最小値 0 をとる  
よって、すべての実数  $x$  に対して

$$f(x) \geq 0$$

$$\therefore \frac{1}{4}x^4 + \frac{3}{4} \geq x$$

$$(2) f(x) = (x^3 - 9x) - (3x - 16) = x^3 - 12x + 16$$

とおく

$$f'(x) = 3x^2 - 12 = 3(x+2)(x-2)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x=2$$

増減表は右図

$x > 0$ において、 $f(x)$  は  $x=2$  のとき最小値 0 をとる  
よって、 $x > 0$  のとき

$$f(x) \geq 0$$

$$(x^3 - 9x) - (3x - 16) \geq 0$$

$$\therefore x^3 - 9x \geq 3x - 16$$

$x$	...	1	...
$f'(x)$	-	0	+
$f(x)$	↗	極小 0	↗

$x$	0	...	2	...
$f'(x)$	-	0	+	
$f(x)$	↗	0	↗	

## 例2

不等式  $x^4 + 2x^3 - 2x^2 + k > 0$  がすべての実数  $x$  について成り立つような定数  $k$  の範囲を求めよ。

(解説)

$$f(x) = x^4 + 2x^3 - 2x^2 + k \text{ とおく}$$

$$f'(x) = 4x^3 + 6x^2 - 4x = 2x(2x-1)(x+2)$$

増減表は右図

$f(x)$  は  $x = -2$  のとき最小値  $k - 8$  をとる

不等式  $f(x) > 0$  がすべての実数  $x$  について成り立つとき

$x$	...	-2	...	0	...	$\frac{1}{2}$	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$k-8$	↗	$k$	↘	$k-\frac{3}{16}$	↗

$$k - 8 > 0 \quad \therefore k > 8$$

(別解)

$$x^4 + 2x^3 - 2x^2 + k > 0$$

$$-x^4 - 2x^3 + 2x^2 < k$$

$$f(x) = -x^4 - 2x^3 + 2x^2 \text{ とおく}$$

$$f'(x) = -4x^3 - 6x^2 + 4x = -2x(2x-1)(x+2)$$

増減表は右図

$f(x)$  は  $x = -2$  のとき最大値 8 をとる

不等式  $f(x) < k$  がすべての実数  $x$  について成り立つとき

$x$	...	-2	...	0	...	$\frac{1}{2}$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+	0	-
$f(x)$	↗	8	↘	0	↗	$\frac{3}{16}$	↘

$y = f(x)$  のグラフが直線  $y = k$  より常に下にあればよいから

$$k > 8$$

## 例3

$x \geq 0$  のすべての  $x$  について、不等式  $a(x-1) \leq x^3$  を満たす  $a$  の最大値を求めよ。

(解説)

不等式  $a(x-1) \leq x^3$  が  $x \geq 0$  のすべての  $x$  について成り立つとき

$x \geq 0$  において、 $y = x^3$  のグラフが直線  $y = a(x-1)$  より常に上にあればよい

$$f(x) = x^3 \text{ とおくと } f'(x) = 3x^2$$

$y = f(x)$  の  $x = t$  における接線は

$$y - f(t) = f'(t)(x - t)$$

$$y - t^3 = 3t^2(x - t) \quad \therefore y = 3t^2x - 2t^3$$

これが  $(1, 0)$  を通るとき

$$0 = 3t^2 - 2t^3$$

$$t^2(2t-3)=0 \quad \therefore t=0, \frac{3}{2}$$

$t=0$  のとき,  $a=0$

$$t=\frac{3}{2} \text{ のとき, } a=\frac{27}{4}$$

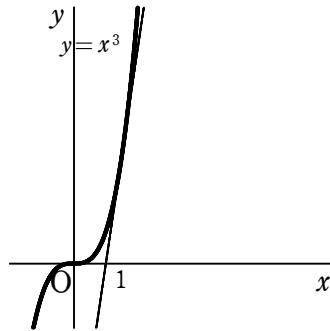
よって、求める条件は図より

$$0 \leq a \leq \frac{27}{4}$$

したがって、 $a$  の最大値は  $\frac{27}{4}$

注

$f(x)=x^3-a(x-1)$  とおいて、 $f(x)$  の  $x \geq 0$  における最小値を求めてそれが 0 以上になるような条件として  $a$  を求めてよいが面倒です。



#### 例4

$x \geq 0$  のとき,  $x^3 + 32 \geq px^2$  が成り立つような定数  $p$  の最大値は   である。

(解説)

$$f(x) = x^3 - px^2 + 32 \text{ とおくと}$$

$$x^3 + 32 \geq px^2 \Leftrightarrow f(x) \geq 0$$

$$f'(x) = 3x^2 - 2px = x(3x - 2p)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x=0, \frac{2}{3}p$$

(i)  $p \leq 0$  のとき

$x \geq 0$  において  $f'(x) \geq 0$  であるから、 $f(x)$  は単調増加

$$f(0) = 32 \text{ より, } x \geq 0 \text{ のとき } f(x) \geq 0$$

(ii)  $p > 0$  のとき

$x \geq 0$  における増減表は右図

$x \geq 0$  のとき  $f(x) \geq 0$  が成り立つとき

$$-\frac{4}{27}p^3 + 32 \geq 0$$

$$p^3 \leq 8 \cdot 27 \quad \therefore p \leq 6$$

$$p > 0 \text{ より, } 0 < p \leq 6$$

$x$	0	...	$\frac{2}{3}p$	...
$f'(x)$	0	-	0	+
$f(x)$	32	↘	$-\frac{4}{27}p^3 + 32$	↗

(i), (ii)より  $p \leq 6$

よって、 $p$  の最大値は  $p=6$

注

3次関数と放物線では考えにくいので、 $f(x)$  の最小値を考えて解く。

例5

$a, b$  は正の定数、 $x > 0$  として、次の不等式が成り立つことを証明せよ。

$$a^3 + 8b^3 + 8x^3 \geq 12abx$$

解説

$f(x) = 8x^3 - 12abx + a^3 + 8b^3$  とおく

$$f'(x) = 24x^2 - 12ab = 12(2x^2 - ab)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき}, \quad x = \sqrt{\frac{ab}{2}}$$

増減表は右図

$f(x)$  は  $x = \sqrt{\frac{ab}{2}}$  で最小

$$\text{最小値 } f\left(\sqrt{\frac{ab}{2}}\right) = -4\sqrt{2}ab\sqrt{ab} + a^3 + 8b^3$$

$t$	0	...	$\sqrt{\frac{ab}{2}}$	...
$f'(t)$		-	0	+
$f(t)$		$\searrow$	極小	$\nearrow$

$$= \left(a^{\frac{3}{2}}\right)^2 - 2 \cdot a^{\frac{3}{2}} \cdot 2\sqrt{2}b^{\frac{3}{2}} + \left(2\sqrt{2}b^{\frac{3}{2}}\right)^2$$

$$= \left(a^{\frac{3}{2}} - 2\sqrt{2}b^{\frac{3}{2}}\right)^2 \geq 0$$

よって、 $x > 0$  のとき

$$f(x) \geq 0$$

$$\therefore a^3 + 8b^3 + 8x^3 \geq 12abx$$

別解

$a^3, 8b^3, 8x^3 > 0$  であるから、相加相乗平均より

$$a^3 + 8b^3 + 8x^3 \geq 3\sqrt[3]{a^3 \cdot 8b^3 \cdot 8x^3} = 12abx$$

### 例6

定数  $a$  に対して関数  $f(x)$  を  $f(x) = x^3 - 6ax^2 + 9a^2x - 4$  と定める。

- (1) 「 $f(1) \geq 0$  である」ための,  $a$  についての必要十分条件を求めよ。
- (2) 「 $x \geq 1$  ならば  $f(x) \geq 0$  である」ための,  $a$  についての必要十分条件を求めよ。

(解説)

$$\begin{aligned}(1) f(1) \geq 0 &\Leftrightarrow 9a^2 - 6a - 3 \geq 0 \\&\Leftrightarrow (a-1)(3a+1) \geq 0 \\&\Leftrightarrow a \leq -\frac{1}{3}, \quad 1 \leq a\end{aligned}$$

(2)  $x \geq 1$  ならば  $f(x) \geq 0$  あるためには

$f(1) \geq 0$  であること, すなわち  $a \leq -\frac{1}{3}$ ,  $1 \leq a$  であることが必要

$$f(x) = x^3 - 6ax^2 + 9a^2x - 4$$

$$f'(x) = 3x^2 - 12ax + 9a^2 = 3(x-a)(x-3a)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x = a, 3a$$

(i)  $a \leq -\frac{1}{3}$  のとき

$x \geq 1$  において  $f'(x) > 0$  より  $f(x)$  は単調増加

よって,  $x \geq 1$  ならば  $f(x) \geq 0$

(ii)  $a \geq 1$  のとき

$x \geq 1$  における増減表は下図

$x$	1	...	$a$	...	$3a$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+	
$f(x)$	↗	極大	↘	極小	↗	

$x = 3a$  で最小 最小値  $f(3a) = 27a^3 - 54a^3 + 27a^3 - 4 = -4 < 0$

よって,  $x \geq 1$  において  $f(x) < 0$  となる  $x$  の値が存在する

(i), (ii) より  $a \leq -\frac{1}{3}$

注

(2)において、必要条件である程度  $a$  の範囲を絞っておかないと場合分けが生じて大変です。

例7

すべての  $x \geq 0$  に対して,  $x^3 - 3x^2 \geq k(3x^2 - 12x - 4)$  が成り立つ定数  $k$  の値の範囲を求めよ.

(解説)

$$f(x) = x^3 - 3x^2 - k(3x^2 - 12x - 4) \text{ とおくと}$$

$$x^3 - 3x^2 \geq k(3x^2 - 12x - 4) \Leftrightarrow f(x) \geq 0$$

$x \geq 0$  で  $f(x) \geq 0$  となるためには,  $f(0) \geq 0$  であることが必要

$$f(0) = 4k \geq 0 \quad \therefore k \geq 0$$

$$f(x) = x^3 - 3(k+1)x^2 + 12kx + 4k$$

$$f'(x) = 3x^2 - 6(k+1)x + 12k = 3(x-2k)(x-2)$$

$f'(x) = 0$  のとき,  $x = 2k, 2$

(i)  $0 \leq k < 1$  のとき

$x = 2k$  で極大,  $x = 2$  で極小

$$\text{最小値 } f(2) = 16k - 4 \geq 0 \quad \therefore k \geq \frac{1}{4}$$

$$\text{よって, } \frac{1}{4} \leq k < 1$$

(ii)  $k = 1$  のとき

$f'(x) = 3(x-2)^2 \geq 0$  から  $f(x)$  は単調増加より, 条件を満たす

(iii)  $k > 1$  のとき

$x = 2$  で極大,  $x = 2k$  で極小

$$\text{最小値 } f(2k) = -4k(k^2 - 3k - 1) \geq 0$$

$-4k < 0$  より

$$k^2 - 3k - 1 \leq 0 \quad \therefore \frac{3 - \sqrt{13}}{2} \leq k \leq \frac{3 + \sqrt{13}}{2}$$

$$\text{よって, } 1 < k \leq \frac{3 + \sqrt{13}}{2}$$

(i)~(iii)より

$$\frac{1}{4} \leq k \leq \frac{3 + \sqrt{13}}{2}$$

## (2) 物理への応用

ここでは、直線上を運動する点の位置、速度、加速度について考えます。

### 例8

静止の状態にあった自転車が走り始めてから  $x$  秒後に進んだ距離を  $y$  m とする。  $y$  が  $x \geq 0$  において  $x^2$  に比例し、走り始めてから 3 秒後に 4.5 m 進むならば、走り始めて 5 秒後から 9 秒後までの間の平均の速さは毎秒  m である。

(解説)

$x \geq 0$  において、 $y$  は  $x^2$  に比例するから

$$y = ax^2 \quad (a \text{ は正の定数})$$

走り始めてから 3 秒後に 4.5 m 進むから

$$4.5 = a \cdot 3^2 \quad \therefore a = \frac{1}{2}$$

よって、 $y = \frac{1}{2}x^2$

求める平均の速さは

$$\frac{\frac{1}{2} \cdot 9^2 - \frac{1}{2} \cdot 5^2}{9 - 5} = 7 \text{ (m/秒)}$$

数直線上を運動する点 P の、時刻  $t$  における位置  $x$  は  $t$  の関数である。この関数を  $x = f(t)$  とすると、 $t$  の増分に  $\Delta t$  に対する  $f(t)$  の平均変化率

$$\frac{\Delta x}{\Delta t} = \frac{f(t + \Delta t) - f(t)}{\Delta t}$$

は、時間  $t$  から  $t + \Delta t$  に変わる間の P の平均速度を表します。よって、

$$v = \frac{dx}{dt} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta x}{\Delta t} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{f(t + \Delta t) - f(t)}{\Delta t}$$

は時刻  $t$  における瞬間の速度と考えられます。この瞬間の速度を、時刻  $t$  における P の速度といいます。また、速度  $\frac{dx}{dt}$  の絶対値  $\left| \frac{dx}{dt} \right|$  を、時刻  $t$  における点 P の速さ、または速度の大きさといいます。

時刻  $t$  における点 P の速度  $v$  が、 $t$  の関数  $v=g(t)$  で表されるとき、 $v$  の  $t$  に対する変化率

$$a = \frac{dv}{dt} = g'(t)$$

を、時刻  $t$  における点 P の加速度といいます。また、 $|a|$  を加速度の大きさといいます。速度と加速度について、次のことが成り立ちます。

### 速度と加速度

数直線上を運動する点 P の時刻  $t$  における位置を  $x=f(t)$  とすると、点 P の時刻  $t$  における速度  $v$ 、加速度  $a$  は

$$v = \frac{dx}{dt} = f'(t), \quad a = \frac{dv}{dt}$$

### 例9

物体を、地上 3 m の位置から毎秒 20 m の初速度で真上に投げ上げるとき、 $t$  秒後の物体の高さを  $y$  m とすると、 $y=3+20t-4.9t^2$  で表される。

- (1) 物体が再び 3 m の高さになるのは何秒後か。
- (2) 投げ上げてから 3 秒後の物体の速度  $v$  を求めよ。
- (3) 物体の達しうる最高点の  $y$  の値を求めよ。

#### 解説

- (1)  $y=3$  のとき

$$3 = 3 + 20t - 4.9t^2$$

$$4.9t^2 - 20t = 0$$

$$t(49t - 200) = 0 \quad \therefore t = 0, \frac{200}{49}$$

よって、再び 3 m の高さになるのは  $\frac{200}{49}$  秒後

- (2)  $t$  秒後の物体の速度を  $v(t)$  とすると

$$v(t) = y' = 20 - 9.8t$$

$t=3$  のとき

$$v = 20 - 29.4 = -9.4 \text{ (m/秒)}$$

- (3) 最高点では  $v(t)$  の符号が正から負に変わるために  $v(t)=0$  より

$$20 - 9.8t = 0 \quad \therefore t = \frac{20}{9.8} = \frac{100}{49}$$

このとき

$$y = 3 + 20 \cdot \frac{100}{49} - 4.9 \cdot \left( \frac{100}{49} \right)^2 = \frac{1147}{49}$$

例10

半径 10 cm の球があり、毎分 1 cm の割合で半径が大きくなっている。5 分後に、球の表面積  $S \text{ cm}^2$  は毎分何  $\text{cm}^2$  の割合で大きくなっているか変化率を求めよ。また、体積  $V \text{ cm}^3$  は 5 分後に毎分何  $\text{cm}^3$  の割合で大きくなっているか変化率を求めよ。

(解説)

$t$  分後の半径は  $(t+10) \text{ cm}$  より

$$S = 4\pi(t+10)^2, \quad V = \frac{4}{3}\pi(t+10)^3$$

よって

$$\frac{dS}{dt} = 8\pi(t+10), \quad \frac{dV}{dt} = 4\pi(t+10)^2$$

$t=5$  のとき

$$\frac{dS}{dt} = 120\pi, \quad \frac{dV}{dt} = 900\pi$$

したがって、5 分後の表面積の変化率は  $120\pi \text{ cm}^2/\text{分}$ ,

体積の変化率は  $900\pi \text{ cm}^3/\text{分}$

### 確認問題1

$a$  を正の定数とする。このとき、すべての  $x \geq 0$  と自然数  $n$  に対して不等式  $x^n - a^n \geq n a^{n-1} (x - a)$  が成り立つことを示せ。

(解説)

$n=1$  のとき

$x - a \geq x - a$  であり、成り立つ

$n \geq 2$  のとき

$f(x) = (x^n - a^n) - n a^{n-1} (x - a)$  とおく

$f(x) \geq 0$  を示せばよい

$$f'(x) = n x^{n-1} - n a^{n-1} = n(x^{n-1} - a^{n-1})$$

増減表は下図

$x$	0	...	$a$	...
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$		↗	0	↗

$f(x)$  は  $x=a$  のとき極小かつ最小

最小値  $f(a)=0$

であるから  $f(x) \geq 0$

よって、不等式は成り立つ

確認問題2

- (1)  $a$  を実数とする。 $x \leq 0$ において、常に  $x^3 + 4x^2 \leq ax + 18$  が成り立っているものとする。このとき、 $a$  のとりうる値の範囲を求めよ。
- (2) (1)で求めた範囲にある  $a$  のうち、最大のものを  $a_0$  とするとき、不等式  $x^3 + 4x^2 \leq a_0 x + 18$  を解け。

(解説)

(1)  $f(x) = x^3 + 4x^2$  とすると

$$f'(x) = 3x^2 + 8x = x(3x + 8)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x = 0, -\frac{8}{3}$$

$x \leq 0$  における増減表は下図

$x$	…	$-\frac{8}{3}$	…	0
$f'(x)$	+	0	-	0
$f(x)$	↗	$\frac{256}{27}$	↘	0

$y = f(x) (x \leq 0)$  のグラフは右図の

$y = f(x)$  上の  $x = t$  における接線の方程式は

$$y - f(t) = f'(t)(x - t)$$

$$y - (t^3 + 4t^2) = (3t^2 + 8t)(x - t)$$

$$\therefore y = (3t^2 + 8t)x - 2t^3 - 4t^2$$

これが点  $(0, 18)$  を通るとき

$$18 = -2t^3 - 4t^2$$

$$t^3 + 2t^2 + 9 = 0$$

$$(t+3)(t^2 - t + 3) = 0 \quad \therefore t = -3$$

このとき、 $f'(-3) = 3$

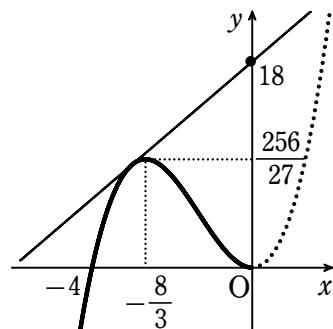
よって、求める  $a$  の値の範囲は、 $a \leq 3$

(2)  $a_0 = 3$  のとき

$$x^3 + 4x^2 \leq 3x + 18$$

$$x^3 + 4x^2 - 3x - 18 \leq 0$$

$$(x+3)^2(x-2) \leq 0 \quad \therefore x \leq 2$$



確認問題3

$a, b$  を正の定数とするとき,  $x \geq 0$  に対して不等式

$$\frac{1}{3}(x^3 + a^3 + b^3) - \left(\frac{x+a+b}{3}\right)^3 \geqq \frac{1}{4}(a+b)(a-b)^2$$
 が成り立つことを示せ。

(解説)

$u = a + b, v = ab$  とおくと,  $u > 0, v > 0$

$$a^3 + b^3 = (a+b)^3 - 3ab(a+b) = u^3 - 3uv$$

$$(a-b)^2 = (a+b)^2 - 4ab = u^2 - 4v$$

より, 与えられた不等式は

$$\frac{1}{3}(x^3 + u^3 - 3uv) - \left(\frac{x+u}{3}\right)^3 \geqq \frac{1}{4}u(u^2 - 4v)$$

$$9(x^3 + u^3 - 3uv) - (x^3 + 3ux^2 + 3u^2x + u^3) - \frac{27}{4}(u^3 - 4uv) \geqq 0$$

$$8x^3 - 3ux^2 - 3u^2x + \frac{5}{4}u^3 \geqq 0$$

を示せばよい

$$f(x) = 8x^3 - 3ux^2 - 3u^2x + \frac{5}{4}u^3 \quad (x \geqq 0) \text{ とおく}$$

$$f'(x) = 24x^2 - 6ux - 3u^2 = 3(2x-u)(4x+u)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x = u, -\frac{u}{4}$$

増減表は右図

$$x = \frac{u}{2}$$
 で極小かつ最小

$x$	0	...	$\frac{u}{2}$	...
$f'(x)$	-		0	+
$f(x)$		↗	0	↗

$$\text{最小値 } f\left(\frac{u}{2}\right) = 0$$

よって,  $f(x) \geqq 0$

#### 確認問題4

$a$  を実数の定数とし、関数  $f(x)$  を  $f(x) = x^3 - 3(a-1)x^2 + 3a(a-2)x + 2$  とする。

- (1)  $f(x)$  の極小値  $b$  を求め、 $b \geqq 0$  となるための  $a$  の値の範囲を求めるよ。
- (2)  $0 \leqq x \leqq 1$  を満たすすべての  $x$  に対して、 $f(x) \geqq 0$  となるための  $a$  の値の範囲を求めるよ。

(解説)

$$(1) f'(x) = 3x^2 - 6(a-1)x + 3a(a-2) = 3(x-a)(x-(a-2))$$

$$f'(x)=0 \text{ のとき}, \quad x=a-2, a$$

$y=f(x)$  は点  $(a-1, f(a-1))$  に関して対称

増減表は下図

$x$	...	$a-2$	...	$a$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	極大	↘	極小	↗

$f(x)$  は  $x=a$  で極小

$$\begin{aligned} \text{極小値 } b &= f(a) = a^3 - 3(a-1)a^2 + 3a^2(a-2) + 2 \\ &= a^3 - 3a^2 + 2 \end{aligned}$$

$b \geqq 0$  となるとき

$$a^3 - 3a^2 + 2 \geqq 0$$

$$(a-1)(a^2 - 2a - 2) \geqq 0$$

$$\therefore 1 - \sqrt{3} \leqq a \leqq 1, \quad 1 + \sqrt{3} \leqq a$$

(2)  $0 \leqq x \leqq 1$  で  $f(x) \geqq 0$  となるためには

$f(1) \geqq 0$  であることが必要

$$\begin{aligned} f(1) &= 1 - 3(a-1) + 3a(a-2) + 2 \\ &= 3a^2 - 9a + 6 \\ &= 3(a-1)(a-2) \geqq 0 \quad \therefore a \leqq 1, a \geqq 2 \end{aligned}$$

$0 \leqq a \leqq 1$  のとき、 $x=a$  で最小となるが、

(1)より、 $0 \leqq x \leqq 1$  で  $f(x) \geqq 0$

$a < 0$  のとき、 $x=0$  で最小となるが、

$f(0)=2$  であるから、 $0 \leqq x \leqq 1$  で  $f(x) \geqq 0$

$a \geqq 2$  のとき、 $x=0$  または  $x=1$  で最大となるが

このとき、 $f(0), f(1) \geqq 0$  より、 $0 \leqq x \leqq 1$  で  $f(x) \geqq 0$

よって、求める  $a$  の値の範囲は  $a \leqq 1, 2 \leqq a$

確認問題5

2つの関数  $f(x) = 2x^3 - 3x^2 - 12x$ ,  $g(x) = -9x^2 + 6x + a$  に対して、次の問いに答えよ。ただし  $a$  は定数とする。

- (1)  $f(x)$  の極大値および極小値を与える  $x$  の値をそれぞれ  $\alpha$ ,  $\beta$  とおく。 $\alpha$  および  $\beta$  の値を求めよ。
- (2) 任意の  $x > \alpha$  に対して,  $f(x) \geq g(x)$  を満たす  $a$  の値の範囲を求めよ。
- (3) 任意の  $x_1 > \alpha$  および任意の  $x_2 > \alpha$  に対して,  $f(x_1) \geq g(x_2)$  を満たす  $a$  の値の範囲を求めよ。

解説

$$(1) f(x) = 2x^3 - 3x^2 - 12x$$

$$f'(x) = 6x^2 - 6x - 12 = 6(x+1)(x-2)$$

$$f'(x) = 0 \text{ のとき, } x = -1, 2$$

増減表は右図

$x = -1$  で極大 極大値 7

$x = 2$  で極小 極小値 -20

よって,  $\alpha = -1$ ,  $\beta = 2$

(2)(1)より,  $\alpha = -1$

$$F(x) = f(x) - g(x) = 2x^3 + 6x^2 - 18x - a \text{ とする}$$

$x > -1$  において,  $F(x) \geq 0$  となる  $a$  の値の範囲を求めればよい

$$F'(x) = 6x^2 + 12x - 18 = 6(x-1)(x+3)$$

$$F'(x) = 0 \text{ のとき, } x = 1$$

増減表は右図

$x = 1$  のとき, 極小かつ最小

最小値  $-10 - a$

求める  $a$  の値の範囲は

$$-10 - a \geq 0 \quad \therefore a \leq -10$$

(3)  $x > -1$  において,  $[f(x) \text{ の最小値}] \geq [g(x) \text{ の最大値}]$  となればよい

(1)より,  $f(x)$  は  $x = 2$  で最小値 -20 をとる

$$g(x) = -9\left(x - \frac{1}{3}\right)^2 + a + 1$$

$g(x)$   $x = \frac{1}{3}$  で最大値  $a + 1$  をとる

よって, 求める  $a$  の値の範囲は,  $-20 \geq a + 1 \quad \therefore a \leq -21$

$x$	...	-1	...	2	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	7	↘	-20	↗

$x$	-1	...	1	...
$F'(x)$		-	0	+
$F(x)$		↘	-10 - a	↗